

令和2年5月21日  
(資料提供)

|  |
|--|
| (事務担当)<br>所属名：農林総合研究センター 農業試験場<br>総合研究部 病害虫防除室<br>直 通：257-6972 |
|--|

## 令和2年度病害虫発生予報第2号について

今後発生が予想される水稲、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 5月下旬～6月中旬

2 予報内容

(1)水 稲

**葉いもち**の発生は**やや少**と予想される。本田に放置された補植苗は伝染源となるので、直ちに除去する。箱施薬していない場合は6月中旬に予防粒剤を散布する。発生を認めた場合は初期の防除を徹底する。

**斑点米カメムシ類**の雑草地における発生は**やや多**と予想される。今後急激な増加も考えられることから、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。

(2)大 豆

**茎疫病**の発生は**並**と予想される。発芽直後の過湿条件は発生を助長するので、排水対策を徹底する。

**ネキリムシ類**の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

(3)果 樹

**ナシ黒星病**の発生は**並**と予想される。降雨前後の薬剤防除を徹底する。

**ハマキムシ類**の発生は**多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

(4)野 菜

**スイカつる枯病**の発生は**やや多**と予想される。トンネル除去時、および発病初期の防除を徹底する。圃場排水に努める。

**ネキリムシ類**の発生は**多**と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。

**ハモグリバエ類**の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。